

『物語ること、生きること』

上橋菜穂子, 瀧晴巳 (著)

講談社, 2016年

ISBN:978-4-06-293338-4

※購入手続き中

『隣のアボリジニ』

小さな町に暮らす先住民』

上橋菜穂子 (著)

筑摩書房, 2010年

ISBN:978-4-480-42727-4

私のすすめるこの1冊

徳永 俊太 (連合教職実践研究科 准教授)

『物語ること、生きること』

上橋菜穂子, 瀧晴巳 (著)

物語を書いているときは、馬車を走らせているような気がするがあります。私の周りに、たくさんの荒馬がいて、懸命にたづなを操って走らせているような気がするのです。

「俺は行くぜ、俺は行くぜ」と先頭を切って走りたがるヤツもいれば「もう疲れた」と休みたがるヤツもいて、最初はてんで勝手なので、なかなかうまくいきません。

それが、あるとき、まるで違うメロディがあわさって、ひとつの合唱になるみたいに、ものすごいスピードで一勢に走り出します。

その瞬間、「ああ、書ける……」と、思う。

いきなり目の前が開けていくような、あの感じをどう言ったら、いいのでしょうか。

物語というのは不思議なもので、作家が暴走する馬車のたづなを必死でコントロールしているのですが、完全にはコントロールしきれないところがあります。

(『物語ること、生きること』p.9)

今回紹介する上橋菜穂子『物語ること、生きること』の冒頭の文章です。この本では、私の好きな作家である上橋が「どうやったら作家になれますか」、「『獣の奏者』や『精霊の守人』みたいな話は、どうやったら生まれてくるんですか』というある意味素朴な問いに、「その物語を書くまでに私がたどってきた道程」すべてを持って応答しています。

上橋菜穂子は、上述した『精霊の守り人』シリーズや『獣の奏者』シリーズを書いている作家です。何らかの本を読んだことがある人もいるかもしれません。アニメ化されましたので、それを見た人もいるかもしれません。児童向けの文庫に入っている著作も多いので、学級文庫や学校図書

館で目にしたことがある人もいるでしょう。私が彼女の作品を読むようになったのはここ数年のことですが、子どもの時に出会っていても、面白く読んだと思います。私が上橋の作品を好きな理由は、文章から様々なイメージが想起できる作家だからです。食事のシーンを読んでいると、食べ物の匂いがしてくるようです。目に見えない精霊の世界のシーンを読んでいると、現実から引きはがされた感覚になります。

上橋には文化人類学者というもう一つの顔があります。オーストラリアのアボリジニのコミュニティでフィールドワークを行い、博士号も取得しています。こちらの内容に興味があれば、『物語ること、生きること』でも触れられていますが、『隣のアボリジニ：小さな町に暮らす先住民』の方を読むことをお勧めします。彼女が描こうとしている世界がより想起しやすくなると思います。

さて『物語ること、生きること』に戻りましょう。この本で、上橋は、自分のことを物語りながらも、それを問い返したり、意味付けたりしています。なぜそうなっているのかと言うと、この本は上橋に編集者の瀧晴巳(構成・文を担当)がインタビューを行って、その内容をまとめるという形になっているからです。聞き手がいることで、彼女の物語は生き物のように躍動していきます。この本の構造自体が、最初に挙げた問いの答えになっているのではないのでしょうか。

最後に、この本に興味を持たれた方がおられましたら、何か役立つことを知ろうと思って読まないようにしてください。この本は、技術指南書ではありません。読み手がいま何を考えているのか、何をしたいのか、何を語りたのかを教えてくれる本です。無理に構えず、自然体で読んでもらえれば幸いです。



附属図書館の企画展示室で、「平和教育と教科書～教科書で戦争と平和を考える～」のテーマで教科書展（第23回）が開催されました。期間は2018年11月15日(木)から12月27日(木)にかけてでした。予想以上の「入り」で、1000名程度の観覧者があったと聞きます。SDGs（持続可能な開発目標）の展示会と開催期間が重なったことも、観覧者の数が多かった理由となります。

今回の教科書展は、戦時下の日本では「国のために命を捨てる」ことが当たり前であり、その世相を小学校の教科書の実物で確認しました。戦時色が強い教科書に対応した教師用指導書では、軍国主義・皇国主義の理念で子どもたちを教化（教え込み）するように教員達に指示します。しかし戦争に負ければ、教科書の内容は嘘だったと墨を塗られてしまい、今回それを実証する墨塗り教科書の実物を展示することができました。



【墨塗り教科書】

戦後の教科書は平和を賛美する教材が増えますが、教科書展では国語教科書にしぼって平和教材の変遷を展示しました。戦時下の教科書は貴重書庫内にあり普段は入館者が見ることはできませんが、この際手に取ることが大切と、図書館職員がしおりを挟みました。そんなこともあり、教科書の該当ページを開いて読む人が多かったようです。



【しおり】

教科書展の記念行事として、「次世代につなぐ平和教育」の講演会を展示期間中に開催しました。次世代型の平和教育である「平和教育プログラム」（広

島市教育委員会）の策定を進めた森川敦子先生に講演していただきました。講演では、平和教育を広げることが私の使命と熱く締めくくられました。

若い人が生きるこれからの社会では、情報化やグローバル化とともに世界が急速に変化していく中で、自分の頭で考えることが最も大切になってきます。教師には、教科書に書い



【記念行事として、「次世代につなぐ平和教育」講演会を開催】

てあるから正しいのではなく、自分が正しいと思うことを教科書で教えることが求められます。本学の図書館が所蔵する戦時中と戦後の教科書を展示することで、多くの方に平和について考えていただけたのであれば、図書館として「知の創出」（新たな知を紡ぐ場の提供）に貢献ができたものと思います。



【解説の映像】



【熱心に見入る観覧者】

卒業・修了予定の方へ

1. 貸出期間の延長

卒業・修了予定の方の貸出は3月11日(月)までとなっています。それ以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きを行うことにより、3月25日(月)まで延長できます。カウンターでお尋ねください。

2. 卒業後の図書館利用について

卒業生利用者としてご利用いただけます。利用証の申請書は卒業式(修了式)で配布し、当日から利用証を発行できますので、ご希望の方はお申込みください。なお、卒業後は本学の学生と利用条件が一部異なりますのでご注意ください。

※3月末に卒業・修了しない方で、貸出中の図書の返却期限日が3月11日(月)の場合は、4月15日(月)に変更されます。図書館への申出は不要です。

春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月28日(月)～3月29日(金)

院生・教職員：1月12日(土)～3月15日(金)

【返却期限日】4月15日(月)

※卒業・修了予定者は3月11日(月)まで

企画展示室(北館1階)

さまざまな展示が開催されました!

みなさんも、発表の場にどんどん活用してくださいね。

<報告>

小学校教科内容「記譜」課題優秀作品展示会

1月23日(水)～2月6日(水)

リフレッシュラウンジ通路にて展示されました。



附属学校・園・子ども美術作品展

1月29日(火)～2月4日(月)

毎年、開催されています!

<開催中>

第三回はじめよう日本画展(日本画研究)

会期を延長しました! 2月5日(火)～4月17日(水)

※最終日は13:30迄



児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催
えほんのもり

学生作のチラシ

学生による絵本のよみきかせ

★3月4日(月) 14:30～14:45

『はるのもりはザワザワ』他

★3月18日(月) 14:30～14:45

『そらまめくんのベッド』他

今月の絵本カード(学生作)

『めざめのもりのいちだいじ』

作：ふくざわ ゆみこ
出版社：福音館書店

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



教育資料館 まなびの森ミュージアム

休館中です

※3月25日(月)

9:00～12:30 臨時開館

今月の逸品(2・3月)

展示場所：図書館

「歴史科教授用参考掛図第八圖:明治天皇御即位式の図」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。

教育資料館まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 井谷 恵子(体育学科 教授)

学習者の意識・経験からみた体育カリキュラムのジェンダー・ポリティクス —性別二元制・異性愛主義に着目して—

井谷恵子・三上純・井谷聡子・関めぐみ
京都教育大学紀要. 2018, No. 133, pp. 165-179.

1989年に男女平等カリキュラムが達成されてから30年が経過します。ところが、小学校から中学・高校へと年齢が上がるにつれ、女性が男性に比べて体育が「苦手」「嫌い」「楽しくない」と感じる傾向が強まり、運動やスポーツから離れる割合が高くなります。本研究は、「第二次性徴など身体特性があるから仕方がない」「だから男女別も当たり前」という認識に対して、「それは体育カリキュラム自体の『ポリティクス(政治)』ではないか」と問いかけます。同様に「異性を好きになるのが自然」という考え方に対して「『自然』とか『規範』って何なのか」「誰がそう考えているのか」という問いを立てます。

このような問いの背景には、日本の体育カリキュラムをはじめ部活動、体育行事などが近代スポーツを中心に構成されていることがあります。近代スポーツというのは、サッカーや陸上競技など競技性を備えたスポーツを指し、19世紀後半に男性の教育手段として発祥し、近代社会の発展を主導した競争原理を内包しています。いわば、体育は端から男性用に定義され、「女性よりも優位」で「男と女はこんなにも違う」ことを明示する仕掛けとも言えるでしょう。また、チアリーディングに象徴されるように、「勝利者は女性に讃えられる」ことも暗示し、異性愛を浸透させる機能も併せ持っています。

研究結果は、体育や運動部活動が「規範的男性」にとって居心地の良い場であり、「規範的女性」の参加意欲や参加率は相対的に低く、「規範的でない性」は居心地の悪さを感じ、そこから離脱する傾向のあることが推測できました。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2019年3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3/6 館内整理日
3/12 後期入試
3/25 卒業式

2019年4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

4/11 前期授業開始

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<http://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.222 (2019年3月号)

発行日:平成31年3月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION